

東京言語研究所

集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学を研究されている方や言語学に興味をお持ちの方を対象に〔理論言語学講座〕をはじめとして様々な講座を開設しております。〈集中講義〉は、多様な研究の一領域を集中的に学べる講座です。ぜひご参加ください。

〈演題〉 可能表現の認知意味論

—英語中間構文と日本語無標識可能表現を含めて—

〈講師〉 **本多 啓 氏** (神戸市外国語大学教授)

〈日時〉 2017年9月9日(土) 13:00~18:00 (90分講義×3コマ)
10日(日) 10:30~16:15 (90分講義×3コマ)

〈会場〉 東京言語研究所 (新宿区西新宿 6-24-1 西新宿三井ビル13階)

〈参加費〉 一般 12,000 円

学生・大学院生・2017年度理論言語学講座受講生 9,000 円

〈申込み〉 ホームページ申込みフォームまたはFAXにて下記をご連絡下さい。(定数:50名)

※ 申込み受付期間は7月28日(金)~9月7日(木)までです。

- ①集中講義受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号 ⑦Eメールアドレス
⑧区分(2017年度理論言語学講座受講生・一般・学生) ⑨所属区分(大学生・大学院生・
教員・会社員・その他)

(上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません)

講師紹介:

東京大学大学院英語英文学専攻博士課程修了、博士(文学)。現在神戸市外国語大学教授。専門は認知言語学。主な著書に『アフォーダンスの認知意味論—生態心理学から見た文法現象』(2005、東京大学出版会)、『知覚と行為の認知言語学—「私」は自分の外にある—』(2013、開拓社)など。

○ 問合せ先

公益財団法人ラポ国際交流センター 東京言語研究所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル16階

TEL:03-5324-3420 FAX:03-5324-3427

E-mail:info@tokyo-gengo.gr.jp ホームページ:http://www.tokyo-gengo.gr.jp/

講義 概要

英語の可能表現 **can** や英語の中間構文をはじめとする可能表現について認知意味論の立場から検討する。具体的には、可能表現に見られる様々な特性を、アフォーダンス知覚と原因帰属を道具立てとして説明することを試みる。また、英語の中間構文を無標識の可能表現として位置づけることで見えてくるものを論じ、あわせて日本語の無標識可能表現との並行性と相違を検討する。英語の中間構文は被動者(patient)を主語とする無標識可能表現であるが、英語には動作主(agent)を主語とする無標識可能表現も存在する。本講義の最後ではこれについての分析の展望を提示する。

第1講では英語の可能表現 **can** の分析に能力可能と状況可能の区別を導入することの有効性を確認する。この区別の導入により **can** の多義性の一部が適切に説明できることを確認する。

第2講では能力可能と状況可能の区別の認知的な基盤としてアフォーダンス知覚と原因帰属を提示する。原因帰属に関して心理学において得られた知見を導入することにより可能表現の様々な特性が説明できることを示す。第3講ではこれをふまえて能力可能と状況可能の区別と自己概念の関係を論じる。

第4講～5講では英語の中間構文を検討する。第4講では英語の中間構文に対応する日本語表現としていわゆる（自動詞による）無標識可能表現を想定する。これによって英語中間構文の特性のいくつかの説明できることを示す。また英語の中間構文が（能動表現に対応する）受動表現と見なされるのに対して日本語の無標識可能表現が受動表現とは考えられないという両言語の相違についても検討する。また、英語中間構文を可能表現と見ることによってカテゴリーとしての中間構文の広がりについて新たな見方ができることを示す。

第6講では *Mary speaks English well.* のような動作主を主語とする無標識可能表現の分析についての展望を示す。

テキスト： ハンドアウトを配布します。

時間割

*進捗状況により変更の可能性があります。

- 1 能力可能・状況可能の区別と英語の助動詞{*it can*}
- 2 可能表現の認知的基盤: アフォーダンス知覚と原因帰属
- 3 可能表現と自己概念
- 4 英語中間構文と日本語無標識可能表現
- 5 プロトタイプカテゴリーとしての英語中間構文再考
- 6 もう一つの無標識可能表現

9日(土)

13:00 講義—1
14:30 講義—1 終了 休憩
14:45 講義—2
16:15 講義—3 終了 休憩
16:30 講義—3
18:00 講義—3 終了

10日(日)

10:30 講義—4
12:00 講義—4 終了 休憩 昼食
13:00 講義—5
14:30 講義—5 終了 休憩
14:45 講義—6
16:15 講義—6 終了